BADS｜得点と条件を整理する

遂行機能障害症候群の行動評価 日本版 Clinical record / 01

氏名・ID：_____ 評価者：_____

評価日：____年____月____日 年齢：____歳 使用版：_____

1 実施条件

評価の目的	生活で確認したい困難：
影響する要因	理解・記憶・視覚・聴覚・運動・疲労：
時間・変更点	開始： 終了： 休息・変更・中断：

2 6課題のプロフィール得点

正規用紙で採点したプロフィール得点を転記します。各0〜4点、高いほど良好な遂行。観察だけから独自に0〜4点を付ける表ではありません。

下位検査	得点（0〜4）	代表反応／未実施理由
1 規則変換カード検査		
2 行為計画検査		
3 鍵探し検査		
4 時間判断検査		
5 動物園地図検査		
6 修正6要素検査		

プロフィール合計	_____／24点 完了した課題：_____／6
標準化得点	_____ 年齢補正した標準化得点：_____
全般的区分・換算	_____ 使用した表・頁：_____

未実施を0点に置き換えず、欠測・換算・分類は日本版マニュアルに従います。24点と標準化得点は異なる尺度です。

3 DEXは別に記録

本人用	_____／80点 日付：_____
他者評定用	_____／80点 評定者・続柄：_____
食い違う場面	

20項目・各0〜4点。高いほど日常の問題が多い方向。BADSの24点へ加算しません。未回答の扱いは使用資料を確認します。

BADS｜過程を記録する

開始・途中・終了で起きたこと Clinical record / 02

4 標準条件での観察

「段取りが悪い」ではなく、何に着手し、どこで止まり、何を自分で修正したかを残します。追加の促しを行った場合は内容と時点を記録します。

観察する過程	課題名／実際の反応・発言
着手前の計画	
規則の保持・変更	
時間の確認・配分	
課題間の切り替え	
誤りへの気づき・自己修正	
終了・残りの確認	

5 本人・他者の情報と照合

具体的な生活場面	本人の説明	他者の観察

両者の違いは、観察する場面・支援量・本人の気づきなどを確かめる手がかりです。得点差だけで原因を決めません。

6 支援につながる仮説

得意な条件	
困りやすい条件	
次に確かめる生活課題	

BADS｜生活で確かめる

検査後の支援と再評価 Clinical record / 03

7 支援を一つずつ試す

対象活動：_____ 達成したい目標：_____

条件	支援前	支援後
工程表・タイマー等		
完了時間／目標時刻		
忘れ物・抜け・重複		
促しの回数・内容		
自分で確認できた場面		

翌日・別の場面での再現性：_____
次回そろえる条件：_____

8 カルテ・申し送り

架空例：外出準備で持ち物探しに時間を使い、出発前の照合を省略。工程表と途中確認のタイマーを導入すると、未完了の物品を自分で確認した。次回は完了時刻・忘れ物・促し回数を比較し、別の日にも同じ手順を使えるか確認する。

事実と仮説	
支援と反応	
次回の目標	

正規資料・参考文献

日本版の正規資料：Gakken 検査＆リハ

用稲丈人ほか. 高次脳機能研究. 2009;29:247–255. doi:10.2496/hbfr.29.247
Murakami H, et al. Neurol Clin Neurosci. 2015;3:209–214. doi:10.1111/ncn3.12002
Jeffay E, et al. J Head Trauma Rehabil. 2023;38:52–64. doi:10.1097/HTR.0000000000000834

STROKE LAB編集の臨床記録シートです。正式な教示・問題・採点・換算は使用版の正規資料をご確認ください。